

# 営農技術情報

－畑作（秋まき小麦③）－

令和2年 6月 1日発行

上川農業改良普及センター名寄支所 TEL01654-2-4524  
JA道北なよろ TEL01655-3-2521  
JA道北なよろ営農センター TEL01654-3-4307

～茎数が多いほ場は、植物成長調整剤の使用を検討しましょう！～

## 1 生育経過

幼穂形成期は平年より12日早く迎えましたが、5月中旬の低温により生育は鈍化し、現在は平年より4日程度進んでいる状況です。茎数は、平年より多く推移しています。

＜生育状況(5月15日現在)＞

	起生期	幼穂形成期	止葉期	出穂始	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)
<b>本年</b>	<b>4/ 5</b>	<b>5/ 1</b>			<b>33</b>	<b>2,371</b>
平年	4/20	5/13	6/ 2	6/ 7	24	1,917
遅速	早15日	早12日			+9	+454

## 2 倒伏軽減対策

ほ場ごとの生育状況を確認し、茎数が多く倒伏が懸念される場合は、植物成長調整剤を使用しましょう。使用する際は、使用時期が遅れないように注意しましょう。

### 【植物成長調整剤の使用方法】

資材名	使用時期	10a 使用量	10a 散布水量	使用回数
エスレル10	止葉期～出穂始期	200～333ml	100リットル	1回

※「出穂始期」とは、初めて出穂を見た日から20%出穂まで。

※「出穂」とは、穂先が止葉の葉鞘から抽出した状態。

## 3 追肥について

「きたほなみ」の収量確保には、止葉期の窒素追肥が欠かせません。

追肥量は窒素4kg/10aを目安とし、これまでの追肥量を考慮して設定しましょう。ただし、倒伏を避けるため、前回の追肥日から15日程度間隔を空けましょう。

## 4 赤さび病・うどんこ病の発生に注意！

昨年は5月中旬以降の高温少雨により、赤さび病が多発しました。本年も一部のほ場では、下葉や茎に赤さび病やうどんこ病が発生しています。

止葉が侵されると減収の要因となりますので、ほ場の発生状況を確認し、防除を行いましょう。

### 【赤さび病・うどんこ病の防除農薬例】

薬剤名	使用倍率	使用基準	
		時期	回数
チルト乳剤25	2000～3000倍	収穫3日前まで	3回以内

◎ 農薬は使用基準を守り、農薬飛散に注意しましょう ◎